

目的 第3報での因子分析に基づく結果をふまえて、昭和59年度全国消費実態調査静岡県分原本家計データを用いて、相関行列になる主成分分析の手法を用い、生涯収支において、ライフステージの變化を1つの収支変動要因と考えて、各ライフステージの収支動向の特徴を数量的に捕えることを研究の目的とした。

方法 分析のための基礎データは、昭和59年度消費実態調査静岡県分原本家計データより、前提として設定したライフサイクルモデルに基づく、7つのライフステージ別に、家計データを独自に抽出、集計したものを用了。分析の手順としては、まずライフステージ別に、各費目間の相関行列を求め、これをもとに、主成分分析の手法を用いて、各主成分の計算結果および散布図から、それぞれのライフステージにおける支出動向を特徴づける要因を検討した。さらに、同基礎データを用いてクラスター分析をおこない、デンドログラムを作成して、主成分分析の結果と併せて、各ライフステージの支出動向を特徴づける要因を検討した。また、これらの検討結果から、エンゲルをはじめとする従来の家計法則の有意性についても、若干の検討を加えた。

結果 収入および支出の各項目間の相関分析の結果ならびに、主成分分析の結果から、各ライフステージの収支動向を特徴づける要因を明確にするとともに、それらを整理し、今後同様なる手法に基づいて他のデータでの分析、さらに、今回の分析結果との比較検討を行う場合に有効となるような指標を見出すことができた。